

令和6年度第1回石巻市総合計画審議会 会議録

■日 時 令和6年8月26日（月） 午後1時～午後3時

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

会議に先立ち、市長より各委員に委嘱状を交付

1 会議開催について

委員数19名に対して15名が出席しており会議は成立

2 副市長あいさつ

3 会長及び副会長の選出

委員の互選により、会長に姥浦道生委員、副会長に後藤宗徳委員が選出された。

（会長あいさつ）

総合計画というのは皆様ご存じのとおり、市の行政の一番の根本となる大切な計画です。

ここに一文書かれているかが、行政からすると非常に重要ということで、細かいことでも結構ですので、皆様方からご意見をいただければと思っております。

特に、石巻市の場合は普通のまちとは違い、13年前に地震があり、それ以来復興ということで、全国の方々に直接的間接的に様々なご支援をいただいていたところかと思えます。そのような皆様方も、石巻がその後どうなったのかということについて、非常に注目していらっしゃると思いますし、そういう皆様方に石巻市というのはこういう素晴らしいまちになったということをお見せすることが、我々ができる一番の恩返しかと思っております。

その基本となる計画ですので、皆様方からの忌憚のないご意見ご議論をいただきながら作って参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

4 諮問

5 議題

(1) 石巻市総合計画審議会について（説明：政策企画課）

質疑なし

(2) 第2次石巻市総合計画後期基本計画の策定方針について（説明：政策企画課）

（委員）

本日、何について諮問されたのかがよく分からなかったため、教えていただきたい。

（会長）

先ほど諮問されたのは、「1. 第二次石巻市総合計画後期基本計画」に関することです。

（委員）

何か計画があって、それを諮問して答申をもらうということではなく、今回はこれから後期計画をつくるということを諮問するという点、理解しました。

6割か7割くらいの方々が総合計画推進会議にも出席されているので、分かっていると思いますが、事務局から KGI と KPI の結びつきが悪い、目標達成に繋がっていないとお話があり、今回ロジックモデルで解消していきたいということの説明ですが、そもそも、指標自体の設定があまり良くないという可能性もあるのではないのでしょうか。

現在進行中の前期計画の1つ1つの個別事業の指標が、しっかり評価をされた上で後期計画を策定するということが、このスケジュールを見た限りでは読み取れなかったもので、その部分が検証されているのかお聞きます。

また、総合計画に載っていないと予算がつかず事業ができないということもあるかと思いますが、事業の絞込みやその指標など、職員の皆さんの負担が減って、市民の方々にもわかりやすいような評価や目標設定、事業の数などのあり方が検証されているのか確認です。

（事務局）

まず施策評価の検証については、総合計画推進会議の委員の皆様方により、KPI の達成状況を図るという形で検証作業を進めております。

その下にぶら下がってくる個別の事業部分については、総務部で個別の事務事業評価を昨年度から実施し、総合計画推進会議の委員の皆様へは資料をお渡ししております。評価検証は、事務事業、施策ともに評価を実施しております。

KPI を設定した施策については、基本的な考え方として、その節の最終的な目標を達成するために必要になる要素が施策、KPI を上げるために必要になるものが事務事業ということであり、それらの繋がりが見えない、目標値の設定の仕方が甘い、そういったお話も多々いただいております、それを反省点としてしっかり踏まえ、今回の後期計画の方では整理をしていきたいと考えております。

いわゆる PDCA のサイクルをしっかりと構築することが、これから事務事業を管理していくためには必ず重要になってくると考えておりますので、今回しっかりと事務事業も含めて整理をしていきたいと考えております。

(会長)

私から1点伺います。

スケジュールを見ると、次回は「ロジックモデルと指標」と記載されていますが、一方で我々が考えないといけない部分というのは、基本計画、地方創生地区別の重点施策の選定と指標の設定ということで、この重点施策の選定というのは、どの時点でどういう形で行うのでしょうか。

(事務局)

重点施策につきましては、市民の方からいただいた意見とか、各統計データ等々を集め、分析作業を進めております。

後期計画で重点的に取り組んでいくものの取りまとめの時期は、おそらく年明けぐらいになるかと考えており、2月末から3月上旬を目途に皆様へご説明をさせていただければと考えております。

(会長)

重点施策と目指す姿は別のもので、目指す姿は決まっていて、それに対しての評価について今回は再構築し、重点施策についてはそれとは別に考えたいということによってよいのでしょうか。

(事務局)

おっしゃるとおりです。目標としては、すでに10年間の基本構想を市民の皆様のご意見や議決をいただいて策定しており、その基本構想で掲げる目標については今回、見直しは予定しておりませんので、基本的には6つの基本目標は変更しないということとなります。

その中で、今後の5年間でさらに重点的に取り組んでいく必要があるものをしっかりと分析をした上で、今回の後期計画の中に反映をしていくと考えております。

(3) 基礎データ及び市民満足度調査の結果について（説明：政策企画課）

(委員)

前期計画から引き続き、人口政策や人口戦略といった部分が一番大事になってくるというお話の一方で、今回は、基本構想の人口戦略は参考資料なので特に見直すつもりはなく、国と県の動向を踏まえながら考えるという話がありました。

これは、社人研推計で統計的に推計がされていて、2060年になると概ね人口が半分になるということは事実としてわかっているの、特に変更するつもりはないということなのではないでしょうか。

今回、基本目標を変えないという中で、重点方針としてこれから5年間、市として何をやっていくかということ、この会議で語りながら決めていくと思うが、その中でも、人口が一番大事だということであれば、人口を増やすことにするのか、それとも人口が減っていく中でも豊かさを求めていくのか、教えていただきたい。

(事務局)

まず人口ビジョンについて、ご承知のとおり、人口減少対策は1つの自治体レベルの話ではなく、全国の多くの自治体が課題として挙げている部分かと思います。東京一極集中を是正するため、まち・ひと・しごと総合戦略という計画の中で、各自治体で今まで取り組んできましたが、実際は今回人口戦略会議の中の結果を踏まえると、その成果が現れなかったというのが現状です。

人口減少問題はやはり国や県と一体的に実施していく部分が多いものですから、数字の部分につきましても、基本的には国、県が目指すべき人口の考え方と整合をとることとし、2020年度の国勢調査の結果を踏まえた社人研推計を踏まえ、また、国や県の動向を確認しながら、市としては進めていきたいと考えております。

重点方針との関係では、人口減少の問題はおそらくすべての分野に関わってくるものかと思います。国の総合戦略は、一昨年の12月に閣議決定されておりますが、各自治体もDXの取組も考慮した上で、新しい地方版の総合戦略を作っていくということが位置付けられており、産業、福祉、教育、コミュニティなどいずれも今後の人口減少対策の中で、有効な資源や強みの部分を有効的に活用しながら施策を展開していくことになると思います。そうした中で、今回必要な施策を選定し、後期計画に位置付けていきたいと考えております。

(委員)

今の時代は、特に人口が減っていく中で、どのように市の豊かさを保っていくのが難しい時代なのかと思っています。その点は市役所内部で考えていただければと思います。

また、今回の市民満足度調査の回答数が2000人弱ぐらいとのことですが、人口13万人に対し、子供は答えられないにしても少ないと感じました。少ないことが悪いということではなく、私もこういう立場にならなければ総合計画に触れる機会にはほぼなかったと思います。市民の方々が見るタイミングも、おそらくほぼないのではないかと考えており、市役所がどのように考え、自分が住んでいる街がどこに向かって行っているのか、もしくは市民の皆さんがそこにどうやって関わっていくのかが分かるよう、後期計画を作っていくべきかと思いました。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。お話いただきましたとおり、おそらく市民の方で総合計画の中身を理解されている方は、多くないと思います。今回の後期計画策定にあたっては、市のすべての個別計画の基本となる計画ですので、概要版を作って、例えば、市で行っている出前講座などを活用しながら、市民の幅広い世代の皆様にも共有ができるよう、しっかり説明をしていきたいと考えております。その際、子供からお年寄りまで幅広い皆さんにご理解をいただくために、例えば、石巻らしく漫画を使うなど、今後検討していきたいと考えております。

(会長)

総合計画は市の行政計画として作るのか、それとも行政だけ市役所だけではなくて、民間事業者であったり、一般の市民であったり、本日その代表の方々が出席しておりますが、そういう方々にどうしてもらいたいとかと、そういうところまで含めて書くのか、根本的な部分も含んでいる気がしました。

今回、後期基本計画となるため、どこまで変えるのか変えないのかという話はあるかと思えますし、その中間的な話として今、事務局がお話したような、作ったものを市民の方々に見ていただき、理解していただき、それで皆さんどうしますかという、ある種問かけ投げかけという形もあるでしょう。一方では、市の行政計画として作る部分というのが片方にあり、もう一方では、市と市民等が一体となって新しいまちづくりをしていきたいと思いますというものがあるという計画にするなど、大きく2つあるということを入念に入れて考えていただければと思います。

(委員)

人口減少問題で、先ほど事務局から国や県の出方を見るというようなお話をいただきましたが、石巻はどれくらい困っているか、もっと行政も真剣に取り組んで欲しいなと思います。やはり何かをしないと、これは絶対解決できないと思う。

私のお店で長年婚活をしています、なかなか女性が結婚に関心を持たなくなり、女性を集めることが大変です。おそらくこの企画も女性が集まらない。何か良い方法が見つかれば、人口問題も解決できるのかと思います。

国や県を当てにせず、まず自分たちで石巻をどういうまちにするか。将来の子供や孫たちのためにも、もっともっと積極的にやっていただきたいと思います。

(事務局)

総合計画というのは、市民の皆さんと一緒に作り上げていくというものと考えております。人口減少対策を進めていく中で、民間の皆様の力と連携して、一緒に進めていくというのが、本来のまちづくりなのかと思っておりますので、引き続き連携させていただければと思っています。

(委員)

1つ目は意見ですが、これから重点改善をしていくということで、安全、商工業、観光などいろいろ挙げていただいてご説明いただきました。例えば、安全に関しては交通安全の話がありましたが、実際には体感の治安や認知の問題もあるかもしれないので、課題であるところの原因の分析はしっかりやったほうがいいと思います。

それから2つ目が、施策の評価について、ABCという評価がついていましたが、Aばかりが並んでしまうと改善点が見つからないので、BCが並ぶ方がむしろいいのではないかと思います。Aを狙わなくても、いろいろ社会情勢も変わっていくことから、こういう課題も見えてきたねということで、BCあたりをむしろポジティブに受けとめ、次への伸びしろにしていくというような捉え方をしてもいいと思います。

一方、BCとなったところを改善するというアプローチだと、マイナス点だったとこ

ろを、目標値に戻すというところで、それこそ総花的な取組になりがちだと思います。むしろ、Aの部分をもっと伸ばそう、さらに伸ばすよう強化しよう、そういうアプローチもしていかないと、石巻市の魅力がはっきりしてこないのではないかと思います。

例えば東京においても課題だらけです。しかし、何か魅力があるから、住んでいる人が多いのです。マイナスをプラスマイナスゼロに戻すというだけではなく、せっかく尖がって進んでいるところがあるのであれば、そこをもっと伸ばすというような、AをSにするみたいなアプローチも考えるべきなのではないか、という感想です。

(事務局)

今回の調査では、職業別や年代別で、詳しくクロス集計も進めさせていただいておりますので、年代別でとか職業別とかそれぞれどういった課題があるのかという部分を、今後しっかりと庁内で分析を進めていきたいと思います。

評価の部分につきまして、ご感想ということだと思いますので、どうもありがとうございました。

(委員)

確認と、十分気をつけなければならないという感想です。資料3の右下の方で見ますと、市民満足度調査の結果が4つのブロックに分かれていて、例えば教育に関するところだと、満足度が低くて重要度が高いという「重点改善」の項目が2つに絞り込まれていて、「教員の質の向上」と「学力向上の取組」となっています。ところが十分気をつけなければいけないことが、本来課題なのは「見直し」となっているところ、つまり満足度が低くて重要度も低いという、重要度が高いという数値的な問題だけじゃなくて、重要度が低いと思っていること自体も課題じゃないかという考え方も実は必要ではないかと思います。

これは意識の問題で、数字に現れるものと数字に現れないものというのが、特に教育領域ですと見える学力と見えない学力というものがございしますので、そういう視点から見ていくことも必要ではないかと思いました。

つまり、満足度調査の概要の11ページの項目を見てまいりますと、教員の指導力と、学力に絞られていますが、「子供の健全な心身の育成」が「維持・強化」で果たして良いのかということも含めて、或いは、「地域と連携した学習機会の提供」、これも「維持・改善」になっていますが、相互にすべて関連しているという視点から、今後見直していかないと、かなり焦点化されてくるかと思います。つまり、教育は学校だけでなく地域、或いは家庭とも連携して図っていくというところも十分配慮していただく必要があるかと気づいたところでございます。

(事務局)

おっしゃるとおりだと思います。全世代の中で評価した結果として今回「重点改善」として出していますが、教育の分野であれば、小学生中学生のお子さんがある保護者の世代だと、また少し変わってくると思います。

環境分野などについては全世代で確認した結果として位置づけられると思います
が、高齢福祉分野であれば、ある程度高齢の皆さんの意見としてどう思われているの
かとか、それぞれの年代での分析も必要と思っていますので、その点も含めて分析を
したいと思います。

(委員)

「子供の健全な心身の育成」、「地域と連携した学習機会の提供」の2つをあえて取
り上げさせていただいたのは、本来、各学校適正規模適正配置のもとでの学区再編が
実は根本的な本質のところかと思っています。ところが、今後の教育を改革していく中
で、石巻市では小中高等学校すべての学校が、学校運営協議会を設置しているところ
ですので、これも何らかの機会に見直しをしていかないと、本質的な改善には繋がら
ないのではないかというところを意見として述べさせていただきました。

(委員)

今回、KPI・KGIをロジックモデルで評価するというような話だが、実際に推進会議
委員をやっている、もともとKPI・KGIというのは、企業の分析においての有効な手
段だと思う。本屋で調べてみたが、公共事業についての本が見つからなかったので、
出版社に行政上の評価に何か適した本があるか聞いたところ、無いと言われました。

KGIについて今回私が批判したのは、非常に目標を低くしていたため、Aが多くな
る。望むのはもっと高いレベルです。

今回は、行政と市民が一体となってやるべき分野だと思う。ぜひ今回のロジックモ
デルの検討の際には、十分に時間をかけて、もっと民間の力を最大限活用し、行政の
ための行政のプランを作るのではなく、もう少しきめ細かく時間をかけてでも真剣に
進める方がいいのではないかと思います。

(会長)

今のご意見は、例えば資料3の右側をご覧くださいますと、上の方の表で、例えば
公共交通、第1章のところにあると思います。令和4年度も5年度もAで、非常に素
晴らしい公共交通をやっているという市役所の評価ですが、市民満足度はというと、
公共交通ネットワークの整備が「重点改善」になっています。この辺りをどうするの
かというのは非常に大きな問題であり、民間の力なりをもう少し活用してはどうかと
いうお話でございました。

(事務局)

時間を十分にとり、しっかりと組み立てていきたいと思っております。

(委員)

詳細にわたっての評価分析はすごく大事だと思います。大事だと思いますが、根っ
この原点に常に帰らないと、枝葉末節な部分にどんどん入り込んでしまい、何人かの
方々からご意見出されたような不都合、例えばKGIとKPIの不整合とかが出てくるの
ではないかと思っています。

その原点は何かというと、資料2の1ページの上にある第二次石巻市総合計画基本

構想において、令和12年まで掲げる将来像として、『ひとりひとりが 多彩に煌めき共に歩むまち』、これを制定したときはすごく練ったと思います。「ひとりひとり」とは何なのか、「多彩」とはどういう捉え方か、「煌めき」とはどういうことなのか、根っこを洗い出して、常に事業をやるときには、原点に返るということ、それから、何人かの委員から出されたように、総花的になりやすいので、常に原点に返り石巻としてどういうまちづくりをしていくのか、我々も行政も市民もともに歩めるようなものを作っていないと、石巻らしさは出てこないだろうと思います。

1つの事業をやるときに原点に返り、どう繋がっていくのかということを大事にしていくべきだと思います。

(委員)

先ほど来、皆様から素晴らしい意見をいただいて、なるほどと思いました。

総合計画基本計画を見ていたら、先ほどお話があった『ひとりひとりが 多彩に煌めき共に歩むまち』が出ています。そしてここに基本施策が載ってしまっていて、リーディングプロジェクトの重点施策が載っています。旧石巻市ばかりではなく、桃生とか牡鹿とか、その地域の特色があるものがあっていいのかと。みんな総花でなくてもいいのではないかなと。そうすると、すごく交通の不便なところもあるし、小さいながらも次の世代を確保しようと自治組織でやっているところもあるわけです。目に見えるというか、一般市民が体で感じるような重点施策を具体的に作ってほしいと思います。

(会長)

地区別の話についてちょっとだけお話いただけますでしょうか。

(事務局)

冊子の136ページから地区別将来展望ということで掲載しております。この部分につきましても冒頭でお話させていただきましたが、地域のまちづくり委員会の皆様としっかりと議論させていただきながら、今お話ありましたとおり、それぞれの地域ごとに課題やそれぞれの良さ、それをうまく活用し、より良いまちづくりを進めていくかということを、しっかりと議論させていただきたいと思っています。

(委員)

市民意識調査に関して、令和元年よりは参加してくれる方が増えているのかと思いますが、先日叔母のところにも調査があり、「何言っているかわからない」と言われながら一緒に見て、回答しました。教えながら何とか回答しましたが、やはりこれが総合計画のベースになるものだと思います。私たち委員はここで発言できますが、市民の方たちは思ってもどこで言ったらいいのか分からない方がいらっしゃる中で、この意識調査はベースにあるものです。先ほど事務局が仰ってましたが、多くの市民にもっと参加していただくよう、広める活動をぜひ頑張りたいと思っていますし、私たちも何か協力できることがあればやっていきたいと思っています。

(委員)

10年一昔というような形でよく言われていたのですが、今時代の流れというのは大分速くなってきて、総合計画を作ったのも5年前ということで、時代も大分変わってきていると思っております。そうした中で、計画の見直しで絶対に欠かせないものは、人口問題だと思う。それに触れないで計画づくりをするということはありませんので、人口問題も踏まえた形で、今後の5年間の計画策定をしていただきたいと思います。

また、私も総合計画推進委員に入っていますが、強化という部分はプラス思考だけで、足し算の部分はあるが引き算というのがない。足し算と引き算、両方入れた形での目標値の設定をしていただきたいと思います。

(会長)

付け加えますと、先ほど来の議論で、人口をどうするのかという話と、この計画をどうするのかという話と、それから重点施策をどうするのかという話と、指標なり評価なりロジックモデルをどうするのかという話、いくつかの要素がありますが、それらがどのような時間軸で関係しながら決まり、最終的なアウトプットになっていくのかが分かりづらいので、次回までに分かるようにしていただければと思います。

(事務局)

様々な立場の皆様からご意見をいただくことができました。

この基本構想では令和3年度に作る際に、将来像ということで『ひとりひとりが多彩に煌めき 共に歩むまち』、この「ひとりひとり」は誰を指すのか、「多彩に煌めく」の「多彩」とはどのようなことなのか、「ともに歩む」とはどのようなかたちで共に歩むのか、この辺を議論した中で、この将来像を定めてございます。

原点というのをしっかり見据えた中で、今日、様々なご意見をいただいておりますが、前期の計画は4年目になりました。後期の計画に向けてどのような具体的な取組が必要なのか、人口減少問題、非常に石巻市にとっては大きな問題でございます。外から人を呼び込むことも大事でございますけれども、今石巻に住んでおられる方がずっと石巻に住み続けたいような取組を、この計画の中でしっかりと議論をして、新しい後期計画につきましては、ここにいる皆様が納得できるように計画を作って参りたいと思いますので、様々な立場で、様々なご意見をいただきながらこの会議を進めて参りたいと思います。

6 その他

7 閉会あいさつ

(副会長)

約2時間にわたる長時間のご議論ありがとうございました。

今日の資料の中に、私が深く関わっている分野が重点改善というところでノミネー

トされましたが、難しいと思っています。市外から来る方々は、着実に震災後コロナ禍を経て増えてきています。その一方で、市民の方々の満足度というのは、決して高くないという、このギャップをどう埋めていったらいいのかと考えていました。

私の中には地域づくりというか、観光というのはいろいろな分野に薄く広く関わっておりますので、地域が良くなれば外から来る方は増えるだろうと。「近き者喜び遠くの者来たる」というのが基本だと思っています。

そういう中で今日はこの立場にいるということは、市からは一生懸命考えるよう言われているのかと思いますが、行政を支える民間の人たちが関わる会議体が多くあり、そこでいつも思うのは、市に対して意見を言うことが仕事の半分だということです。残り半分は、逆に市が何を考えて、何をやっているのかという、市民の方々に見えない部分を、私どもが媒介としてお伝えしていくという役割も半分担っているのではないかと思います、ぜひ皆さんとそういうスタンスで臨んでいければと思っています。

また、人口減少の問題が出ておりましたが、誤解、批判を恐れないで言えば、日本は縮小していくわけで、人口は間違いなく減っていきます。石巻も同じであるのであれば、どういうまちづくりをしたらいいのか、そういう根本の大前提も、皆さんとともに議論ができたらいいいのではないかと考えております。

今日はどうもありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

石巻市総合計画審議会委員名簿

No.	氏 人	所 属	備 考
1	姥浦 道生	東北大学災害科学国際研究所	出席
2	横江 信一	石巻専修大学	出席
3	庄司 昌彦	武蔵学園データサイエンス研究所 / 武蔵大学	出席 (Web)
4	伏見 不二雄	石巻市町内会連合会	出席
5	井上 達彦	石巻市防災士協議会	出席
6	遠藤 一恵	石巻市女性活躍推進会議	出席
7	宇角 安弘	特定非営利活動法人 いしのまき環境ネット	出席
8	林 久善	社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会	出席
9	木村 民男	石巻市子ども・子育て会議	出席
10	尾形 輝雄	石巻商工会議所	出席
11	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
12	近藤 浩之	いしのまき農業協同組合	欠席
13	後藤 宗徳	一般社団法人 石巻観光協会	出席
14	橋本 丈史	株式会社 街づくりまんぼう	出席
15	阿部 隆	特定非営利活動法人 石巻市スポーツ協会	欠席
16	伊藤 桂子	石巻市社会教育委員会	出席
17	大森 憲市	石巻市PTA協議会	欠席
18	花岡 徹	石巻金融団	出席
19	日野 淳	株式会社 口笛書店	欠席

令和6年8月26日現在（敬称略）